

令和4年度 小平市立小平第十小学校 学校評価計画表

学校教育目標 人権尊重を基盤に、将来の社会を支える全ての児童の「生きる力」を育むため、学習の基礎・基本の定着を図るとともに、児童が人と関わり相互に高め合いながら、自律的に成長していく教育を推進する。
 ○考える子 ○やさしい子 ○やりとげると ○たくましい子

目指す学校像(ビジョン)
【目指す学校像】 笑顔いっぱい 夢いっぱい とともに伸びゆく 小平十小
【目指す児童・生徒像】 ・根拠を明確に自分の考えを表現できる児童 ・自他の生命を尊重し、自分も友達も大切にできる児童 ・失敗から学び、最後までやり
【目指す教員像】 どの子も伸ばす「分かる授業」「楽しい授業」をする教師 ・学習規律のある学級経営をする教師 ・常に自己研鑽に努める教師 ・服務事故を絶対に起こさない教師 ・保護者、地域に信頼される教

前年度までの学校経営上の成果と課題
 「成果」教職員による児童の主体性を重んじる丁寧な指導により、一人一人の児童のよさが生かされる学習活動の充実を図ることができた。
 「課題」児童一人一台配備された学習者用端末の利用・活用の推進し、個に応じた指導の充実を図る必要がある。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	成果指標
学力向上	小平市教育振興基本計画に基づき、全ての子ども「生きる力」を育み、確かな学力を定着させる。	個に応じた指導の充実及び各学年の基礎・基本を確実に身に付けさせる。	年2回の読書旬間により活字に触れる機会を設け、言語活動の充実を図る。一人一台に配備された学習者用端末の利用・活用することで、個々のニーズに応じた学習活動を充実させる。	4 全学年全学級で実施 3 実施率90%以上 2 実施率80%以上 1 実施率80%未満	4 児童の達成率90%以上 3 児童の達成率80%～90%未満 2 児童の達成率70%～80%未満 1 児童の達成率70%未満
		学年に応じた(10分×各学年)自主的な家庭学習の習慣を身に付けさせる。	宿題と自主的な家庭学習を合わせた時間(10分×学年)とし、音読、漢字、計算に取り組ませながら、自ら設定した課題を週2回以上取り組めるようにする。	4 教職員の取組評価90%以上 3 実施率80%以上 2 実施率60%以上 1 実施率60%未満	4 児童の達成率90%以上 3 児童の達成率80%～90%未満 2 児童の達成率70%～80%未満 1 児童の満足度ABが70%未満
健全育成(いじめ防止)	他者との人間関係を築く力を身に付けさせる。	場に合ったあいさつや友達と協力すること等ができる力を身に付けさせ、自分も友達も大切にできる態度を養う。	全教職員で朝のあいさつを励行する。学校行事や学年活動、委員会等、児童が自ら考え取り組む活動を支援し、一人一人が活躍できる機会を充実させる。	4 教職員の自己評価で肯定的回答90%以上 3 教職員の自己評価で肯定的回答80%以上90%未満 2 教職員の自己評価で肯定的回答70%以上80%未満 1 教職員の自己評価で肯定的回答70%未満	4 児童の満足度ABが95%以上 3 児童の満足度ABが90%～95%未満 2 児童の満足度ABが85%～90%未満 1 児童の満足度ABが85%未満
		「いじめゼロ」を目指し、全ての児童が「毎日学校が楽しい。」と思える学級、学校をつくる。	割り班活動(なかよし班活動)を充実させるとともに「学級力向上プロジェクト」を全学級で定期的の実施し、学級力を高める。いじめ防止対策基本方針について学校組織を生かして確実に取り組む。	4 教員の取組評価95%以上 3 教員の取組評価90%以上95%未満 2 教員の取組評価85%以上90%未満 1 教員の取組評価85%未満	4 児童の満足度ABが90%以上 3 児童の満足度ABが80%～90%未満 2 児童の満足度ABが70%～80%未満 1 児童の満足度ABが70%未満
特色ある学校づくり	学校・家庭・地域が協働するとともに、関係機関と連携した教育活動の充実を図り、子どもを支え合う学校づくりを目指す。	コミュニティ・スクールの取組の充実を図る。	年間計画に沿って、学校経営方針を具現化するための熟議を行う学校経営協議会を開催する。	4 年6回以上 3 年5回以上 2 年4回以上 1 年3回未満	4 コミュニティ・スクール委員の満足度を90%以上 3 コミュニティ・スクール委員の満足度を80%～90%未満 2 コミュニティ・スクール委員の満足度を70%～80%未満 1 コミュニティ・スクール委員の満足度が70%未満
		地域の人材活用等、家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を学校教育に生かす。	生活、社会、理科、総合的な学習の時間等の学習に地域の人材を活用する。	4 全学年で地域の人材を活用 3 4つ以上の学年で地域の人材を活用 2 2つ以上の学年で地域の人材を活用 1 地域の人材の活用が未実施	4 児童の満足度の肯定的評価が80%以上 3 児童の満足度の肯定的評価が60%以上 2 児童の満足度の肯定的評価が40%以上 1 児童の満足度の肯定的評価が40%未満
業務改善・働き方改	働きやすい職場づくり、勤務時間・健康管理を意識した働き方改革を推進する。	学習評価や学校業務等の効率化により教職員の負担軽減を図る。	児童一人一台配備された学習者用端末の利用・活用を充実させ、合理的且つ効果的な学習環境を整える。	4 実施率100% 3 実施率90%以上 2 実施率80%以上 1 実施率80%未満	4 教職員の満足度ABが90%以上 3 教職員の満足度ABが80%～90%未満 2 教職員の満足度ABが70%～80%未満 1 教職員の満足度ABが70%未満
		教務部に校務改善推進委員会を設け、日常業務上の課題解決を図る。	日常業務の課題解決を推進する委員会を通して、教職員の働きやすい環境を整える。	4 実施率100% 3 実施率90%以上 2 実施率80%以上 1 実施率80%未満	4 教職員の満足度ABが90%以上 3 教職員の満足度ABが80%～90%未満 2 教職員の満足度ABが70%～80%未満 1 教職員の満足度ABが70%未満

※取組評価のAは4段階評価で「よくできた」、Bは「ほぼできた」を指す。